

1 研究発表会参加者数等について

開催日	指定校	研究主題	参加者数
10月15日	西郷小学校 (学習指導)	深く考え、仲間とともに高め合う子の育成 ～少人数学級の特質を生かした学習指導を通して～	381名 (幼保6名・高5名)
10月22日	牛川小学校 (情報教育)	意欲的にかかわりあい 学びあう「牛川っ子」の育成 ～ICTを活用した授業づくり、学校づくりを通して～	573名 (幼保12名・高12名)
10月29日	南部中学校 栄小学校 (学習指導)	学びをつなぐ ～言語活動の充実を図り、「考えを深め、表現できる生徒」の育成～	572名 (幼保5名・高14名)

2 研究の成果と課題について

【西郷小学校】

- 少人数学級の特質を生かし、教師が「対話」により子ども一人一人に向き合い、子ども同士のつながりのある「学び合い」により問題解決的な学習を展開していた。少人数学級における学習指導のあり方の一手本となった。
- 教師が子ども一人一人に願いをかけ、座席表に追究を丁寧におとし、支援していく教師の姿勢は学ぶべきものがあつた。市内各学校の少人数指導に研究成果を生かせるようにしていくことが大切である。
【授業ごとの部会】：西郷小の研究内容や授業者の授業づくりについて十分な説明があり、参加者は深く理解することができた。今後はさらに、研究の本質（検証）により迫っていけるような協議にしたい。

【牛川小学校】

- 個々の子どもの考え、子ども同士のかかわり合いを深めるため、ICTを効果的に活用した研究であつた。子どもの情報活用能力を育成するICT教育のあり方を示す先進的な取り組みとしての方向性を示す研究であつた。
- ICT活用を単元構想の中の導入・展開・まとめの場面に位置づけ、それぞれのICT機器のもつ特性を効果的に活用し、子どもの興味関心を高めたり理解を深めたりすることにつなげていた。
- 【授業ごとの部会】：グループ協議では、授業の視点に基づいて活発な意見交流がなされ、そこで話題になったことに焦点を絞って全体会が進められた。全体会では、グループ協議の成果を共有した上で、それを踏まえながらさらに協議を深められるよう会の進め方を検討していきたい。

【南部中学校（協力校：栄小学校）】

- 「言語教育」を軸とした小学校の学びのサイクルを中学校における問題解決的な学習につなぐ小中連携のあり方を示す研究発表であつた。
- 生徒一人一人が自分の考えをしっかりとち、友だちの意見にかかわらせながら息の長い発言をしていたが、話し合いをより深めていくという点で、切り返しやゆさぶり等、効果的な教師の出が必要であつた。
- 【授業ごとの部会】：付箋を用いてのワークショップ型の協議会で、活発な意見交流がなされた。司会者が、研究と授業の手だてのつながりに視点をあて、その有効性について議論することで、研究の本質に迫れるようにしたい。

3 全体を通して

- 3校とも、子どもの実態や地域性をもとに研究構想が練られ、研究が進められていた。
- 研究の手だてが有効であつたか等、成果の検証方法について、今後の課題としたい。
- 限られた時間の中で研究の本質に迫れる協議にするため、事前に研究内容や協議の進め方、分科会の構成について司会者と綿密な打ち合わせをし、視点を明確にした上で話し合いを進めていくようにしたい。